

雄勝地区の「伊達の黒船太鼓保存会」(神山正行会長)は、平成3年、旧雄勝町の町制施行50周年を記念し、観光客誘致の起爆剤として誕生しました。しかし、これまで練習場所としてきた雄勝公民館は被災し、二十数台あった太鼓や衣装も被害を受けました。現在のメンバーが全員無事だったのが、何よりの救いだったといえます。

神山会長自身、震災で家を失くすなど大変な状況でしたが、メンバーたちの太鼓への情熱は冷めることなく、逆に「地域芸能を絶対に途絶えさせない」という強い意志で結束し、重ねた漫画本を太鼓に見立てて練習を再開させたのは、震災があつた年の夏のことでした。



一体感のある響きを県内外のステージで披露 (平成24年11月17日、山形県民会館)

い」と神山会長は話します。現在は蛇田のホールを借りて週1回、練習に励んでいます。市内外での演奏では、震災で地元を離れた雄勝地区の住民も駆け付け、懐かしそうに演奏に耳を傾けてくれます。神山会長は「雄勝の頑張っている姿を発信することで、震災で地元を離れた人たちにも元気を届けたい。地域復興の一助になれるよう、これからも活動を続けていきたいです」と抱負を語っていました。



雄勝地区伊達の黒船太鼓保存会

地域復興の一助目指す 精力的に演奏活動展開

みんなのた場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



会ったことのない友へ、 ありがとう

私は45年以上文通を続けている方がいます。中学の時、雑誌で「文通しませんか」という記事があり、それに手紙を書き、そこから始まっています。

素直に、誰にも話すことのないこと等、それを聞いてもらいたくて書きます。すると向こうも、今までおそらく誰にも話したことなどないだろうということを書いてくれます。ところが、その人とは一度も会ったこ

とがありません。東日本大震災の時は、私のつらいこと悲しいことをずっと書き続け、その都度励ましてくれました。どんなに心の支えになったとか。物での支援もいっぱいいただいています。が、「ことばの支援」というものもあります。 そんな会ったことのない友へ、ありがとう。(及川かすみ)

石巻なごみ伝心板

第五回「日進月歩」

春の環境の変化についていけず、ムクムクと新芽のごとく表面化してくる五月病。最近では『新うつ病』や『プチうつ』といった新語も生まれ、とても身近な病となりました。うつ病は気の持ちようや弱さから起こる病気ではないようですが、周囲を意識しすぎる生活をしていると歩調合せに疲れ果て体調を崩してしまいます。まず、人と比べない!をモットーに、たとえネズミ程の歩幅でも自信を持って日々前進。自分なりの日進月歩で行きましょう。

南 久美子

(遊墨漫画家 京都府出身・在住)



◇投稿募集 皆さんの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。 テーマ 「ありがとう」 日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。 字数 400字以内 投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課あてにお送りください。掲載

の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。 注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。 問 秘書広報課(内線4025) 〒986-8501(住所不要) Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

石巻地区

自分たちのまちは自分たちで創る! 協働のまちづくり



4月9日(火)桃生地区、4月11日(木)山下地区の住民が参加し、協働のまちづくりのための初会合が開かれました。東京都八王子市のコミュニティデザイナー吉永鴻一さんが市民協働の意義を説明し、まちに関心を持つことを呼び掛けました。続いてワークショップが行われ、「まちの長所」や「2030年にどういうまちを実現させたいか」等のテーマで地域について考えました。

石巻地区

石ノ森萬画館リニューアルオープン



3月23日(土)・24日(日) 石ノ森萬画館



石ノ森萬画館のリニューアルオープンに、藤岡弘、さんや水木一郎さんらが駆けつけました。昨年の11月17日にリオープンしていましたが、常設展示の入れ替えのため閉館していました。開館を待ち望んでいた皆さんの長蛇の列ができていました。